

Jun, 2021

# Gender equality & Poverty reduction

Vol. 12

ジェンダー平等・貧困削減ニュースレター



Cover Photo: JICA / Atsushi Shibuya

## CONTENTS

- .....
1. 巻頭メッセージ：ガバナンス・平和構築部長 宮崎 桂
  2. ジェンダー平等の潮流：第 65 回国連女性の地位委員会報告
  3. 案件紹介①：小規模農家金融包摂プロジェクト～COVID-19 の小規模農家への影響と対応策
  4. 案件紹介②：総括クラス向けジェンダー研修
  5. 各国報告①：グアテマラ COVID-19 影響下における女性企業家支援
  6. 各国報告②：パナマ 帰国研修員の活動取材～日本で習得した知見を活かして～続編
  7. 各国報告③：パキスタン オンラインセミナー「パキスタンの女性とソーシャルインクルージョン」
  8. 知ってる？金融包摂シリーズ 金融包摂って何が美味しいの？
  9. 書籍紹介：「存在しない女たち～男性優位の社会にひそむ見せかけのファクトを暴く」
  10. ドキュメンタリー紹介：Netflix「AI に潜む偏見：人工知能における公平とは？」
  11. お知らせ：金融をテーマにした機関誌 Mundi4 月号発行

## 巻頭メッセージ ～着任のご挨拶～

昨年 10 月にガバナンス・平和構築部長を拝命致しました宮崎です。約 2 年半前までジェンダー平等・貧困削減推進室長をしておりましたので、懐かしく、特にやりがいのある部署に戻って来られたことを嬉しく思っております。改めて、どうぞよろしくお願い致します。

さて、昨年 9 月末、約 2 年ぶりにタイから帰国して以降、今年の 3 月末に発表された最新のジェンダーギャップ指数で日本が 120 位と、日本の政治や経済分野での女性の進出が進展していないことや、コロナの影響で DV の被害を受けたり、仕事を失う女性が多いことなど、残念なニュースを目にすることが多く、JICA として何ができるだろうと考え込むことがしばしばありました。

そういう中で、本ニュースレター今号で特集される本年 3 月に開催された CSW(国連女性の地位委員会)のテーマはまさに「公共分野における女性の意思決定への参画と暴力の根絶」。途上国だけではなく、日本自身にとっても喫緊の課題、タイムリーなテーマであったと思います。

ジェンダーに基づく暴力の根絶に関しては、ジェンダー平等・貧困削減推進室がビジネスへの女性の参画支援と並んでこれから集中的に力を入れていく分野です。タイにおいては、ひとつの「暴力」といえる人身取引の対策案件が実施されていたこともあり、私自身、元被害者のグループ（ピアサポートグループ）による再発防止やご自分たちの生計向上に向けて話し合うワークショップに参加する機会がありました。参加者の方々と親しくなるにつれ、その辛い思い出を知り、自分事として、「同じような経験をする人を絶対増やしてはいけない」と決意を新たにしました。そして、私と同じように自分事としてこの問題の闇の深さを理解し、解決に向けて賛同して下さる方を増やすことが重要だと考えています。

このニュースレターを読んでおられる方は、言うまでもなく賛同して下さる方々ばかりのはず。皆様、これからどうぞよろしくお願い致します。

(ガバナンス・平和構築部長 宮崎 桂)

## ジェンダー平等の潮流：第 65 回国連女性の地位委員会 (the Commission of the Status of Women; CSW) 報告 (3 月 15 日～26 日)

国連女性の地位委員会 (CSW) は、1946 年 6 月、国連経済社会理事会の機能委員会の一つとして、政治・社会・経済 分野等におけるジェンダー平等の推進と女性のエンパワメントについて、同理事会に勧告・報告・提案等を行うことを目的として設置されました。毎年、3 月 8 日の「国際女性の日」の前後の 2 週間、ニューヨークの国連本部で年次会合を開催し、女性の地位向上とエンパワメントに関する課題や取組の進捗について議論され、その成果として合意結論が取りまとめられます。これを受けて、経済社会理事会は総会に対して勧告を行うことになっています。今年 3 月 15 日から 26 日まで、テーマ「公共分野 (public life) における女性の意思決定への参画と暴力の根絶」の下、第 65 回国連女性の地位委員会が開催されました。会議は、ニューヨークの国連本部とオンラインで行われ、加盟国の閣僚、国連機関や市民社会の代表・関係者が参加しました。最終日にまとめられた合意結論のポイントとして、①女性の意思決定への参画は拡大傾向にある一方、その進捗は非常に遅く、完全なジェンダー平等の達成には現状のままでは 130 年かかる、②女性に対する暴力が蔓延している、③新型コロナウイルス感染拡大が続く中、ジェンダー平等と女性のエンパワメントに向けたこれまでの進捗が後退を余儀なくされている、④女性の参画と意思決定を促進させるとともに、女性に対

する暴力を撤廃することができなければ、2030年までに持続可能な開発目標の達成は不可能である、ことが挙げられました。また、ジェンダー平等を主目的とする協力や女性市民組織に対する ODA 資金の増加、女性組織や女性のための活動を直接支援する特別な基金の設置等を通じて、ジェンダー平等を支援する資金の量と質を増加させていくことについて合意しました。

(ジェンダー平等・貧困削減推進室 四方 八重戸)

## 案件紹介①：アルバニア小規模農家金融包摂プロジェクト

### ～COVID-19 の小規模農家への影響と対応策～

小規模農家にとって、預金や保険、融資等の金融サービスにアクセスできることは、不安定な所得を平準化し、生産性向上のための投資を可能とし、不確定なリスクに備えるためにも重要とされています。

本プロジェクトは、アルバニアの村落部の農家への金融サービス提供をミッションに掲げている民間金融機関を実施機関として、

- ① 農家のニーズに合った新金融商品の開発・既存金融商品の改善、
- ② 農業技術・ビジネス等の情報提供・研修など非金融サービスの開発・提供、
- ③サービスのデジタル化によるアウトリーチの拡大をもって、

同機関の「顧客中心主義」に基づく商品・サービスの開発・提供を支援



支援スキームに参加する投入財購入店店主

しています。

ワクチン接種が急がれるものの未だに収束の兆しが見えない COVID-19 は、同国の小規模農家にも経済活動・移動の禁止措置など影響を及ぼしており、プロジェクトは緊急支援策として「農業投入財購入支援スキーム」を2020年8～11月に実施しました。実施機関から農業目的の小規模融資申請の承認を受けた250の農家を対象に、プロジェクト指定の店舗での投入財の購入を支援しました。顧客農家の農業生産が継続されることで彼らの収入が向上し、その結果実施機関における金融サービスの利用機会も増加することが予想され、COVID-19 禍においても小規模農家の金融包摂を推進する事ができました。2021年には支援対象世帯を1000世帯に増やし、同スキームの第2ラウンドを実施します。

(ジェンダー平等・貧困削減推進室 三國 泰葉)

## 案件紹介②：総括クラス向けジェンダー研修

2021年3月4日に「総括クラス向けジェンダー研修」を実施しました。JICAでは毎年、JICA案件に従事するコンサルタント等を対象にジェンダー主流化に関する能力強化研修を実施していますが、その参加者の皆様から、「ジェンダー主流化の重要性は大いに理解したが、それを上司である総括にも伝えてほしい！」というリクエストを多数いただいたため、一般社団法人海外コンサルタンツ協会（ECFA）と共催で実施しているものです。5回目の今回はオンライン実施で、約130名もの参加者（JICA内オブザーバー参加20名を含む）が集いました。

研修は、忙しい総括クラスでも参加しやすいよう、2時間でギュッと濃縮したプログラムになっています。

まずは、JICA ガバナンス・平和構築部ジェンダー平等・貧困削減推進室長より冒頭挨拶にて、ジェンダー平等と女性のエンパワメントには組織やチームのトップの理解や指導が不可欠であり総括クラスの方々にも積極的にジェンダー主流化を推進していただきたいとのメッセージが出されました。その後、「ジェンダー平等と女性のエンパワメントに関する最近の動き」と「事業におけるジェンダー主流化」について JICA より発表後、JICA 事業における具体的な取組の事例として、農業・農村開発分野ではウガンダ「北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト」について、インフラ分野では、バングラデシュ「ダッカ都市整備事業」について、それぞれ現場で実施を担ったコンサルタントご担当者から発表いただきました。またそれぞれの事業総括の方からも一言いただき、リーダーがジェンダー主流化を牽引したことによる事業の成功が確認されました。

本研修は来年度も実施を予定しております。ジェンダー平等と女性のエンパワメントに関する能力強化研修と併せ、これまで参加の機会がなかった皆さんもぜひ参加をご検討ください！

(ジェンダー平等・貧困削減推進室 中島 泰子)

## 各国からの報告①：グアテマラ

### COVID-19 影響下における女性企業家支援

グアテマラは「世界ジェンダー・ギャップ報告書 2020」において、153 か国中 113 位とジェンダー間格差が非常に大きく、また女性の労働参加率が 37.4% (ILO,2017) と中南米・カリブ地域で最も低い状況にあります。この格差是正のため、経済省からの要請により 2 つのパイロットプロジェクトを実施中です。

女性の企業家及び生産者・生産者グループを対象としたプロジェクトです。企業家を対象とするプロジェクトは、スーパーマーケットチェーンなど、より大きな市場への流通を実現するための支援、生産者・生産者グループへは、より初歩的にビジネスプランの立て方や How to ネットビジネスなどの講習を行っています。スーパーマーケットへ卸すためのバーコードや食料品等の衛生基準認定取得など、また生産者・生産者グループはビジネスプラン作成により、ローンの申請が可能になるなど、女性企業家たちの更なる発展を支援しています。

このプロジェクトは、ジェンダー平等・貧困削減推進室で実施している、コロナ禍の女性・女兒への影響を調査・分析するとともに、コロナ禍による影響への迅速な対応としてジェンダー平等と女性のエンパワメントを目的とした「新型コロナウイルス感染拡大下における女性・女兒への影響及び対応にかかる情報収集・確認調査」の一環で実施しています。

(JICA グアテマラ事務所 企画調査員 野田みさと)



事業計画研修現場の様子



チカステナンゴ（地名）の女性起業家と製品



見本市にて事業許可証と共に

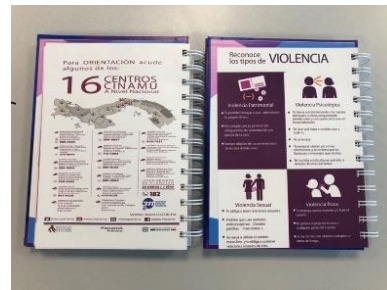
## 各国からの報告②：パナマ

### 帰国研修員の活動取材 ～日本で習得した知見を活かして～ 続編

パナマでは COVID19 感染拡大に伴い、外出制限や在宅勤務、失業等の問題で生活への不安やストレスが増加し、配偶者等パートナーからの暴力が更に深刻化することが懸念されています。

#### 【INAMU（パナマ女性庁）との啓発活動の展開】

パナマ事務所では、コロナ禍における女性への暴力増加の状況を踏まえ、INAMU と連携の下、SGBV (Sexual and Gender Based Violence) 防止啓発ノート 500 冊を作成しました。ノートには、毎月のカレンダーごとに啓発メッセージや同庁提供の DV ホットライン等の支援情報が紹介されています。また、パナマ事務所で作成したタイトル「JUNT@S ELIMINEMOS LA VIOLENCIA DE GÉNERO（一緒にジェンダーバイオレンスを撲滅しよう）」は、スペイン語の男性名詞複数形である JUNTOS を使用せず、@を使用することにより男女平等を意識したメッセージとし、「EY! YA BASTA!（もうやめよう!）」は、あらゆる暴力撤廃を掲げているものです。



本年 3 月、同ノートは JICA パナマ事務所金川所長よりエレラ女性庁長官に譲渡され、全国 16 ヶ所に設置されている INAMU の女性相談センター及び女性の経済エンパワメントワークショップ等にて配布されることとなりました。また、現在公共交通におけるジェンダー視点にたった取り組みの協働に向けて、協議を行っています。



SGBV 防止啓発ノートの譲渡の様子

#### 【ダリエン県 INAMU 女性相談センター】

パナマ東部のダリエン県は、コロンビアとの国境に面し、パン・アメリカン・ハイウェイもここで途切れています。都心部からアクセスが悪く、エンベラ・ウォウナーン族をはじめとした先住民地域でもあり、最貧困地域のひとつです。

この地域では、INAMU 女性相談センター職員が DV 相談の受付のみではなく、脆弱な立場に置かれている女性の社会進出支援に力を入れており、またパン製造や養鶏場経営プロジェクトを実施し、必要な資材の提供及びワークショップ等を行っています。前回ニュースレターでご紹介した女性庁帰国研修員の Julissa さんも、JICA の帰国研修員同窓会プロジェクト支援制度を利用し、パン作りのためのオーブンとミキサーをコミュニ

ティーの施設に設置しました。



ダリエン県女性相談センター担当の Cedeño さんは、「ワークショップには、特に社会的立場の弱い、先住民やアフリカ系移民の女性達が多く参加していますが、研修を通じて彼女たちの自立に対する意識が変化しています。JICA が譲渡したノートはワークショップの場で多くの女性によって活用されており、研修で学んだ内容をメモしたり、ノートに掲載されている SGBV に関する情報を熱心に読んでいます。JICA の支援は、ダリエンにおける女性のエンパワメントを後押しする大切な支援です。」と語ってくれました。



ダリエン県女性相談センター職員の皆さん  
(右 : Cedeño さん)



養鶏場経営ワークショップに参加している  
女性グループ

(JICA パナマ事務所 企画調査員 伊藤 紗季)

## 各国からの報告③：パキスタン

### オンラインセミナー：パキスタンの女性とソーシャルインクルージョン ～モノづくりで夢をかなえる～

3月18日、国際女性デーを記念して標記セミナーを開催、JICA 内外の約90名が参加しました。震災により障害者となった女性の収入向上として古紙からのビーズづくりをビジネス展開する [ペーパーミラクルズ](#)。リサイクルバッグやドライフルーツなどアイデア満載の工房からの中継も実施しました。「シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上及び生活改善支援プロジェクト」では、オンラインで技術指導、マスクや手工芸品のオンライン販売が開始されました。「[アパレル産業技能向上マーケット多様化プロジェクト](#)」では、訓練所での技能開発に加え、託児所、通勤バスの提供等、社会参加の支障を減らす工夫をしています。

「給料をもって帰ると、夫が妻を見る目が変わった」村からのビデオメッセージが好評でした。女性の雇用に関する男性への働きかけや企業の取り組みに活発な議論が交わされ、コロナ禍においても遠隔でパキスタンを支援する日本人女性の熱意が伝わりました。

(JICA パキスタン事務所 萩原 律子)

## 知ってる？金融包摂シリーズ

### 「金融包摂 (Financial inclusion)」って、何が美味しいの？ ①

ジェンダー平等・貧困削減推進室では、貧困層を含め開発の恩恵に預かりにくい人々の「お金のやりくり」に焦点を当てた「金融包摂」＝「全ての人々が、適切な価格で簡便に、また尊厳を持って質の良い金融サービスにアクセスし、利用できるようにすること」の主流化を進めています。

世界には、私たちが日常使っている預金、送金、保険、融資など質の良い金融サービスを使えない人が 17 億人 (4 人に 1 人) います。こうした人々は、例えば預金サービスがないが故に現金を缶の中に隠し盗難にあったり、あるいは病気などで小金が必要な時に高利貸しか頼れず、過重債務に陥ったりします。また、保険がないので、自然災害で壊滅的な被害を受けると貧困の淵から這いあがれなくなってしまいます。金融包摂とは、こうした人々の貧困脱却と生計の安定・向上を後押しするため、貧困層が必要とする金融サービスがマーケットベースで提供されるよう官民に働きかけていくことを言います。貧困層でも利用できるようコストを下げ、また教育レベルの低い人でも使えるよう UX を向上させるなど様々なイノベーションが必要になります。しかし、すでに様々なビジネスモデルの好例もあり、同時に新たな市場開拓と経済成長につながっている側面もあります。

さて、あなたに関わる案件の受益者の人々は、どのような金融サービスを使っているのでしょうか。あるいは使いたくても使えないことでどのような問題に直面しているのでしょうか。そこに意識を向けていただくと、案件改善のヒントが得られるかもしれません。

(国際協力専門員 菅原 鈴香)

## 書籍紹介：

### 『存在しない女たち～男性優位の世界にひそむ見せかけのファクトを暴く～』



キャロライン・クリアド・ペレス著

神崎朗子訳

出版社：河出書房新社 発売日：2020/11/27

一言でいうと、JICA 事業関係者必読の書！です。原著「Invisible Women: Exposing Data Bias in a World Designed for Men」は 2019 年に出版され、数々の栄えある賞を受賞しており、2020 年の年末に日本語版が刊行されました。

本書が膨大な実証的データに基づくエビデンスを持って繰り返し示すのは、人間とは男性のことであり、人類の半数を占める女性がいかに考慮されていないか、そしてそれが「常識」としてまかりとおっている、という現実です。男女は単なる区別ではなく、男性が基準（デフォルト）、女性はその亜型（サブタイプ）に過ぎない、という考え方により、様々なデータにおいて女性は男性に「代表」され、女性はいないものとされます。この「データにおけるジェンダーギャップ」は社会のあらゆる側面にあまりに長い間「自然」とはびこっており、その多くは悪意によるものでもなければ、意図的ではない、一種の思考停止であると著者は指摘します。

本書では、都市計画、公共施設建設、交通機関、税金、医療、災害現場等、私たちが開発を通じて関わっている様々な分野で「データにおけるジェンダーギャップ」が存在することを明らかにしています。それに目を向けず行われた事業や開発された商品やサービス等により生じた弊害や、逆にギャップを考慮した政策や事業の成功例など、私たちの業務にも生かせるような内容が数多く紹介されています。

例えば、スウェーデンのある都市では、毎年の除雪作業を広い幹線道路から行っていました。除雪は一見ジェンダーとは無関係のようですが、日々の移動手段や移動パターンは男女で異なるため、幹線道路、歩道、自転車レーン等のどこから除雪が行われるかによって受ける影響は、実際には男女で異なります。そこで、除雪する場所の順番を替え、歩道から行うようにしたところ、凍結した道路で転倒し骨折する事故が半減（負傷者の 7～8 割は女性）し、除雪作業の 2 倍のコストがかかっていた医療費の削減にもつながりました。他にも、公共トイレを男女同数、同面積で設置することは本当に「公平」なのか？、無公害な調理ストーブが開発されてもなお健康を害する煙のするストーブを女性が使用し続けるのはなぜか？などなど、開発関係者には他人事ではない実例が満載です。

私たちは、女性を考慮せずに作られた社会に生きているため、女性が感じる違和感や不公平感、日々の生活における不便さ等に気づかないことがあるばかりか、それを是正するのは、女性に「配慮」した特例、という傾向さえ見られます。そしてそれはジェンダーだけでなく、例えば障がいの有無や、人種、出生地、性自認や性的指向など、様々な属性において同じことがいえるのではないのでしょうか。気づかないということ＝自分がデフォルト側にいるかもしれないこと、を意識し、当事者の声を聞くことが、「誰一人取り残さない」開発の実現への第一歩であると思います。そんなことを考えるための、オススメの 1 冊です。

(ジェンダー平等・貧困削減推進室 宇佐美 茉莉)

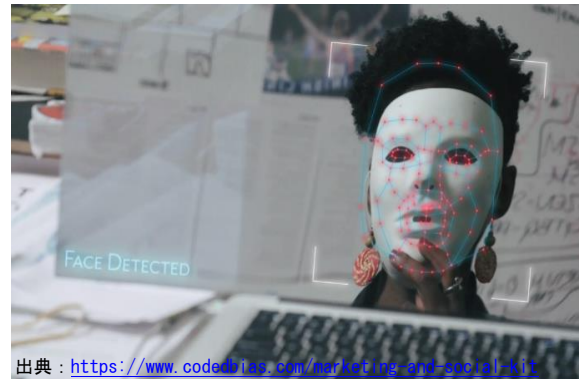


## ドキュメンタリー紹介：

### Netflix『AIに潜む偏見：人工知能における公平とは（原作：Coded Bias）』

買おうか悩んだ商品の広告が出てくる・・・  
 今や現代社会にとって当たり前の日常ですが、この事象に危機感を覚えたことはありますか？

様々な事柄がテクノロジーを使い日々最適化されていますが、アルゴリズムとは過去のデータをもとに最適な答えを出してくれる技術です。では、もし過去のデータにバイアス（偏見）があったら？とそのことに警鐘を鳴らすのがNetflixドキュメンタリー「Coded Bias」（監督：シャリーニ・カンタイヤ）、主人公は、MITメディア・ラボの研究者/アルゴリズムの偏見の是正などに取り組む団体「アルゴリズム・ジャスティス・リーグ」設立者のジョイ・ブオラムウィニ氏です。



出典：<https://www.codedbias.com/marketing-and-social-kit>

ジョイ・ブオラムウィニ氏は、テクノロジーを作っているのは人間であり、作っている人にバイアスがある限り、テクノロジーも同じバイアスを持つと言います。例えば、今多くの企業がアルゴリズムを用いた人材採用に取り組んでいますが、もし過去のデータに「女性」管理職が少なければ、過去のデータをもとに、女性だからという理由で不採用・・・なんて事象が起きかねないのです。

テクノロジーのこと、よくわからないな・・・という人ほど観てほしいドキュメンタリーの紹介でした。

（ジェンダー平等・貧困削減推進室 山田 菜津実）

## お知らせ：「金融」をテーマにした機構誌 Mundi4月号発行

日々の暮らしにおいて欠かせない様々な金融サービス。お金をスムーズに回すことで社会経済活動を活性化させ、より多くの人の生活を豊かにする事が出来ます。金融の機能をうまく働かせるためにはどのような取組が必要なのかマクロの視点からミクロの視点まで包括的にまとめられています。金融包摂の観点から、アルバニア「小規模農家金融包摂プロジェクト」とパキスタン「シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善支援プロジェクト」を事例に、金融サービスへのアクセスが比較的難しいとされているセグメントへの支援・取組が紹介されていますのでぜひご一読下さい。



[金融 みんなのお金 一回す仕組みを作る](#) | [mundi 2021年4月号](#) | [広報誌・パンフレット・マンガ](#) | [JICAについて](#) - JICA

（ジェンダー平等・貧困削減推進室 三國 泰葉）

## ジェンダー/金融包摂案件、関連広報のリンク

---

・カンボジア「女性の経済的エンパワーメントのためのジェンダー主流化プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/cambodia/023/index.html>

・ウガンダ「北ウガンダ生計向上支援プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/oda/project/1500252/index.html>

・パキスタン「シンド州におけるインフォーマルセクターの女性家内労働者の生計向上および生活改善支援プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/pakistan/006/outline/index.html>

・ガイダンスノート ジェンダー視点に立った COVID-19 対策の推進」

<https://www.jica.go.jp/activities/issues/gender/materials/COVID-19.html>

・ベトナム「被害者支援及びカウンセリングのための人身取引対策ホットライン運営強化プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/047/index.html>

・ミャンマー「人身取引被害者支援能力向上・協力促進プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/myanmar/032/index.html>

・アルバニア「小規模農家金融包摂プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/albania/003/outline/index.html>

・ホンジュラス「金融包摂を通じた CCT 受給世帯の生活改善・生計向上プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/honduras/005/index.html>

・ベトナム「ジェンダーの視点に立った金融包摂促進支援プロジェクト」

<https://www.jica.go.jp/project/vietnam/053/index.html>

## 終わりに

---

本ニュースレターは、本年度は年3回発行を予定しています。次号は、9月に発行を予定しています。

今号のニュースレターはいかがでしたでしょうか？

読者の皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。(連絡先：[gpgge@jica.go.jp](mailto:gpgge@jica.go.jp))

(編集：四方 八重戸)

(デザイン：泉 貴広)